TNVN network news
東京日本語ボランティア・ネットワーク
2010.12.10発行 No.72
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1☎03-3235-1171(呼出) 東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

在住外国人支援のための合同会議に参加して

2010年9月3日に東京都生活文化局主催の「在住外国人支援のための合同会議」が“在住外国人への情報提供を行う行政機関や団体等が、地域の特性・実情に応じた取り組みを進め、在住外国人と顔の見える関係を築いていくためのきっかけづくりの場”として開かれ、91団体138名が参加しました。

会議は東京都から、平成22年度外国人支援のための地域防災訓練や在日外国人支援事業助成の報告、引き続き地域別10ブロックに分かれ、ブロック毎で討議が行われました。

各ブロックにはTNVNの会員団体メンバーが多数参加され、改めて合同会議について感想と意見をメールで伺いました。5名の方々から貴重なご意見をいただきました。紙面の都合でそのうち幾つかを紹介します。　（TNVN：梶村勝利）

合同会議が持たれたことの意義と今後の期待

◆都内の外国出身者に関連する各団体が参加したことは、外国出身者をめぐる様々な課題について、議論を深め、対策を検討するスタートとしては意義があり、新たな価値観を創造していく可能性もあります。

◆今後に希望が持てた。具体的な取り組みのための討論の場としていくことが、今後の課題です。

◆テーマ別に集まり、テーマに沿った意見を事前に準備するなど、主催者側と参加者の双方で必要です。

◆主催者側が、何を期待しているかは、実はあまり分かりません。

各ブロック内で特に話題の中心になったこと

◆新しい施策、条例など行政上部で決まったことは、外国人にまでなかなか届きません。

（子ども手当てなどは、外国人にきちんと伝わって、外国人がきちんと申請しているのだろうか）。

◆情報入手の必要性や、その取り組みの紹介（外国人保護者の経験談を通して、保護者の生活水準、経済状態が子どもの育成に与える影響がより顕著に反映されている現実を痛感しました）。

◆子どもの教育。医療通訳のシステムがないこと。

◆異なるボランティア団体で一つのテキストを作り、団体枠を超えた日本語教室を開催しています。地域を越えた日本語教室が協働で日本語ボランティア養成講座を開催しています。

その中で「やさしい日本語」に関する取り組みの様子と参加された皆さんの受け止め方

◆“中野方式”で文書の実物と、易しい日本語の翻訳文、そこからの易しい英文を印刷し、趣旨・中野方式を説明して示したが、易しい日本語の概念・意味が殆どの方に分かっていなかった。

◆行政情報は、役所の立場から発信され、外国人の立場でわかる日本語ではない。

◆外国人とは、英語や、中国語が話せる人だけではない。生活のために必要なことは、やさしい日本語で知らせる一方、日本に住む外国人には、その位の日本語が勉強できる場を広く提供し、外国人も学習し、互いに歩み寄ることが必要です。

◆平仮名表記すればいいというものではない、災害時の対応のように緊急を要するものについては、「やさしい日本語」よりも、出来るだけ多くの言語の正しい訳が付記されている方が実践的、日常の行政用語についても同様です。

その後ブロック内で連携の話が出され、動きだしていますか。

◆連携の形をとるには至らなかった。

その他ご気づきの点

◆現実として、ボランティアは日本語教室の運営だけでも大変なところに、防災の問題、情報提供の問題、外国人生活支援などいろいろな任務を日本語教室に向けられても、負担が増えてやっていけない。地域の多文化共生コーディネーター等の専門家の育成と設置が必要だと思う。

◆コアになる外国の方が日本人との会合に出席されることは心強い。行政が主催する会合に出席するルートを持つ外国人は非常に限られている。そこで得た情報を、各自の同胞の方々、どれだけ伝達できるか、またそうするルートが確立されているかが、いつも気になる。

多文化共生の地域づくり

寄稿

大島 浩司

足立区区民部区民課多文化共生係長

足立区は多文化共生の地域づくりを進めています

2010年（平成22年）7月1日現在、区内在住の外国籍の人は23,422人にのぼり、23区では新宿・江戸川に次いで3番目に多くなっています。また、国籍は100カ国以上と多岐にわたり、1995年から2010年の15年間に外国人登録者数は約1.5倍に増えました。こうした状況を背景に、区では2006年（平成18年）に「足立区多文化共生推進計画」を策定し、国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的な違いを認め合いながら、共に生きる地域づくりを進めてきました。計画策定から4年が経過した2009年、日本人・外国人の双方それぞれ2千人を対象に、地域の実情やニーズを的確に把握するため、「多文化共生実態調査」を実施しました。この調査から明らかになったことは、在住外国人が生活上困っていること、不満なことの約3割が「ことば」の問題であることです。「ことば」の壁があると毎日の生活に必要な情報が十分得られないばかりか、日本人との意思の疎通が図れないことによって思いもかけない誤解が生じる恐れもあります。今後、区としても在住外国人向けの行政情報の多言語化など、コミュニケーション支援に一層力を入れていく考えです。

日本語ボランティア教室は多文化共生の地域づくりの原動力です

区内には日本語ボランティア教室が17団体あります。活動場所は主に区の施設を利用し、曜日・時間帯は様々です。このため、熱心な学習者は自転車で移動し、いくつもの教室で日本語を学習しています。また、各教室で日本語の伝え方やツールが異なり、学習者は自分にあった教室を選ぶことができます。一方、活動している日本語ボランティアは、時節によって学習者が急に増えたり、減ったり、一喜一憂する場面もあるようで、一年に4回開催している各教室の代表者が集まる会議でも活発な意見を交わしています。日本語ボランティアは「ことば」だけではなく、外国人が必要とする病院、買い物などの生活情報や、外国人が抱える日常の相談に応えるなど、行政では成しえないボランティアならではの活動を地域で粘り強く実践しています。この実践活動は外国人と日本人が地域で共に支えあう良好な社会づくりをめざす、多文化共生社会づくりに重要な役割を担っています。

多文化共生の輪を地域に広げていきます

区では、日本語ボランティア活動の拡大と充実を目的に支援講座を開催しています。今年度は31名の参加者が全10回の講座を通して学び、現在、新たな教室づくりや既存教室での活動を始めています。また、日本語ボランティア中級講座や児童向け日本語ボランティア支援講座を開催し、区は地域のニーズに沿った形でボランティア活動の支援をさらに進める予定です。足立区は今後も地域に根ざした日本語ボランティアとの連携を大切にし、多文化共生の地域づくりを進めていきます。

情報伝達における通訳・翻訳

…… 中野の場合 ……

中山 真理子 中野区国際交流協会・専門員

増加の一途を辿る外国語を母語とする住民への情報伝達の重要性がクローズアップされ、「やさしい日本語」が人々の口に上るようになったのは喜ばしいことですが、私達が「中野方式」と名付ける方法は特に目新しいものではなく、煎じ詰めれば「皆が解る日本語」です。

中野区国際交流協会（以降協会）での取り組みはある意味では21年前、発足当時に遡るとも言えますが、以下にまとめてみましょう。

①日常的な情報の伝達：国・都・区・協会からの情報（インフルエンザ、防災、イベント等)は必要に応じて簡単な日本語に翻訳し、そこから中国語（繁・簡）、英語、韓国語に。

②協会の職員も「解る日本語」で話すようにし、イベントの司会も「わかる日本語」で。

③日本語クラス内での防災訓練、救急対応講習等も「解る日本語」を1言語に。（この言語グループが他の4言語総計と同じぐらい需要が多い）

④料理講習会のレシピや作り方も「わかる日本語」で書き、司会・指導も同様に。

⑤日本語ボランティア養成講座、勉強会では100％解る日本語による指導を徹底。

⑥中野区総合防災訓練では避難所で想定情報を「中野方式」により本部横の外国語掲示板に8カ国語に翻訳。

⑦都主催防災訓練では2年連続で「後方支援」として「中野方式」により12ヶ国語に翻訳。

⑧「外国人のためのリレー専門家相談会」では、本年度から正式に「わかる日本語」の通訳として日本語ボランティアの中から二人選抜。

⑨21年度から中野区社会教育主催の生涯学習大学の2・3年生に「国際理解ゼミ」が始まり、「わかる日本語1、外国の人と易しい日本語で話そう」「解る日本語2：外国の人にわかる日本語で情報を伝達しよう」の連続ワークショップ開催。

現在の情報翻訳の方向は大別して「多言語化」か「やさしい日本語」かの二者択一となりますが、いわゆる「中野方式」はどちらでもなく、どちらでもあるのです。

様々な国・地域からの出身者が居住する所謂「散住地域」中野では全ての社会層、多様な民族・言語を対象としなければなりません。多言語化では対応言語数は広がり、経費は際限なく増大します。また難しい行政用語をそのまま多言語の用語に置き換えても、実際のところどれほどの人々がそれを理解するでしょう。つまり、6年間学んだ一般の日本人が英米の行政文書をどれだけ理解できるでしょうか。大学で学んでも、稀でしょう。又、少数言語の翻訳の場合、それが正しく翻訳されているかのチェックは難しいのです。

都の防災訓練でも、一般的に1つの課題情報を多言語化すると、逐語訳的正確さを期すためか、2・3時間かけて練り上げるそうです。「中野方式」では情報の主要項目を失わないぎりぎりの線まで内容を取捨選択し、解る日本語（できうる限りN5レベル：週1回2時間程度の日本語学習を5ヶ月程度した人なら分かる日本語)にし、それを多言語化して、小学生でも、母国で殆ど教育を受けたことのないお年寄りも分かる平易な各国語へ翻訳します。これなら情報を得てから10ヶ国語に翻訳し終えるのに20分程度です。

選ばれた一部の人にしか翻訳できない、理解できない訳文でなく、多くの人が情報伝達者となれる端的な表現は特に緊急時に不可欠の情報を周知させたい場合有効でしょう。地震・水害などの緊急時での情報は正確さ・スピードを旨としますから、日本語と外国語が多少とも解る住民なら翻訳・通訳者になれ、殆どの外国籍の住民が要支援者から支援をする側に回れます。正確であるかもチェックでき、更に、留まることのない多言語化のニーズが押さえられ、経費も抑えられます。

「やさしい日本語」の概念・定義もまだ一様ではありません。私自身も色々な経験をお持ちの方がたから学んでより良い形にしていきたいと思っています。

紙上座談会

実験日本語クラスを終えて

林川 玲子 (TNVN)

東京日本語ボランティア・ネットワークは、ある外国機関から「日本で働く自国の人たちに日本語を学ぶ機会を与えるため、日本語クラスを開設したい。日本語をどのように教え、学ぶのか体験できるモデルクラスを開いてほしい。」と依頼され、毎週2時間ずつ2回、計24回の実験的な日本語クラスを実施しました。参加者は、学習者3名、日本語ボランティア7名です。このクラスは、日本語ボランティアのために新しく作成された教材を使って支援する、日本語ボランティアの研修の場ともなりました。

●参加者（日本語ボランティア歴）
A（14年）、B（7年半）、C（5年）、D（3年）、E（2年半）、F（2年）、G（1ヶ月）

【司会】猛暑を乗り越えて、24回のクラスを終えることができました。まずご感想をどうぞ。

【G】学習者の方々が、明るく、楽しい方たちでしたので、授業時間が短く感じられました。

【A】学習者の皆さんは忙しい仕事を抱えながらも、楽しく勉強され、がんばって何とか理解しようと努力していましたね。

【B】修了式での学習者のスピーチを通して、改めて教えることの素晴らしさを感じました。

【司会】今回のクラスの進め方は、いかがでしたか。

【C】学習者一人に支援者が一人ついたので、会話、説明の補充、理解度のチェックができて、よかったと思います。

【D】その場、その場で、会話形式で練習できたことが一番だと思いました。

【E】毎回交代で、支援者3人のうち1人がリーダー、あと2人ができる生徒役をしましたが、生徒役をした時、リーダーの指示をよく聞いていないと、リーダーの望む答えが出せないので、緊張感がありました。

【司会】教材はいかがでしたか。

【E】新教材に入る前に4回、サバイバル教材を使って、ローマ字、数字など、ゲームをしながら導入したのは丁寧だと思いました。

【C】各課のイラストは、その場で説明に使えてよかったし、導入部分のほかに文法のまとめがあるのは、学習者にとってわかりやすいと思います。でも、11課からローマ字ふりがながなくなったので、その後、教科書を使うことがかなり困難になりました。

【司会】教科書をコピーしてローマ字をつけたものを学習者に渡したり、ホワイトボードにひらがなとローマ字を併記したり、リーダーさんたちはいろいろ考えていましたね。

【A】学習者の要望はいろいろなので、この本全部にローマ字のふりがながつけてあるとよかったですね。でも、動詞のます形といっしょに辞書形が出ているのはよかったです。

【F】教科書の中で、特に実際の場面を想定したロールプレイは、学習者が楽しんで練習してくれました。機知に富んだ、ユニークな会話になって面白かったですよ。

【C】2時間で1課のペースは、新規内容の導入はできても、復習があまりできず、忙しい学習者には定着がむずかしいかもしれませんね。とにかく、20課全部終えましたが…。

【司会】教科書にCDがついていますが、活用できましたか。

【D】ボランティア教室ではCDプレーヤーやコンピューターなどを使うのは難しいし、時間もないので使いませんでした。生徒役の日本人が二人いたので、生会話を聞かせることができましたし…。

【司会】最後に、全体を通してどうでしたか。

【F】初めに、日本語教師の方々にモデル授業を見せていただきましたが、日本語ゼロの学習者を日本語の世界に巻き込んでいく手際よさに、目からウロコが落ちる感じでした。学習者に疑問を持たせないで日本語に引き込むテンポとリズムがあるようですね。

【C】学習者の日本語体験はそれぞれ異なりますが、3人とも同国人で、母語、文化に共通点があったおかげで、助け合い、熱心に、そしてクラスを楽しんでくれてよかったです。

【B】いろいろなリーダーさんのやり方を拝見できたことは、有意義な経験でした。

【G】学習者の方々の修了式でのスピーチは、はっきりした口調で、内容もよくまとまっていたのには、びっくりしました。

【司会】ありがとうございました

＊わたしの国スイス＊

ロマン ボーリンゲル／スイス
初歩日本語（練馬区）

私はロマンです。クール（スイス東部のドイツ語圏）で生まれました。母がロマンシュ語を使いましたので、2言語使用の環境で育ちました。生物対象実験技師です。来日前はベーゼルの製薬会社で働いていました。

来日は5度目で、日本女性との結婚を機に東京に移り、埼玉県の理化学研究所に勤務しています。

2008年に4カ月間、東京で日本語学校に通い、現在は職場の日本語講座を受講し、練馬区光が丘のボランティア教室にも通っています。日本語はドイツ語にも英語にも似ていないので難しいです。

私の国、スイス連邦（スイス）が建国されたのは1291年8月1日です。スイスにはドイツ語、フランス語、イタリア語の3つの言語文化地域とロマンシュ語の山間地域があります。スイスは同じ民族の国でも、同じ言語を話す人々の国でもありませんが、スイス人は、歴史的な背景や、連邦制、直接民主制、中立性の価値を共有し、アルプスというシンボルを共通に持つことを通して強い愛国心を育んでいます。

地理的にはヨーロッパの中央に位置し、フランス、ドイツ、オーストリア、リヒテンシュタイン、イタリアの国々に囲まれています。アルプス山脈、中央高原、ジュラ山脈が国土を分けています。

スイスには鉱物資源がないので、資源を輸入し、製品に加工して、輸出しています。一例がスウォッチ、ロレックス、IWCに代表される時計です。

経済を担う最も重要な産業は銀行、保険、観光などのサービス産業です。

農業も重要な産業ですが、国内生産だけではスイス国民の需要を満たせず、輸入に頼っています。

スイス料理はいろいろあります。フォンジュ、ラクレットといったチーズ料理やロスティ（じゃがいものお好み焼き風）は国内どこにでもありますが、気候や言語文化に基づいた郷土料理が、各地で発達しています。

私は焼き肉、しゃぶしゃぶ、すき焼き、刺身などの日本食が大好きですが、日本のチーズより小ぶりで味の濃いチーズや燻肉といったスイスの食べ物が日本にないのはとても寂しいです。

アルプスの気候や風景は、観光客を惹きつけ、スキーや山登りが特に人気です。温泉や古城も多く、「ハイジ」の物語の舞台となる村があります。

鉄道が発達していて、公共交通手段として利用されていますが、観光客には氷河急行がお薦めです。北イタリアのワイン生産地ヴェルトリンから、高級リゾート地サンモリッツやマッターホルンを臨むツェルマットへ行くことができます。

スイスは、ロカルノ国際映画祭、モントルージャズフェスティバル、パレオロックフェスティバルなどの国際的な催しを主催しています。また、国内各地でお祭りが開かれています。

私が住んでいたベーゼルでは、毎年カーニバルが開催され、とても盛り上がります。

カーニバルは月曜日の早朝4時に始まり、全ての明かりが消されて、行列の大きな提灯が暗闇に輝きます。3日間、町はひっくりかえったような大騒ぎです。

ドラムやラッパの音が街中に響き渡り、旧市街にある酒蔵は、多くが居心地の良い酒場に変身します。住民達は各自意匠をこらしたケバイ、ヘンテコな衣装を纏い、街に色を添えます。

日本のと違ってスイスの催しは、伝統的な意味が希薄で、友人と会って飲む機会となっています。

私は、伝統に根ざした日本の花火大会やお祭りの方が好きです。

私の国スイスは、生活水準が高く、美しい無垢な自然や様々な文化があり、生活するには本当に素晴らしい国です。　（原文英語）

「親切・丁寧な対応」がモットー

高輪日本語の会（港区）

代表　高橋 通子

「高輪日本語の会」は昨年2009年4月に発足しました。以来、「親切・丁寧な対応」をモットーに在日外国人と日本語を通じて交流を図っています。

本会は日本語を勉強する場であると同時に、日本人、日本文化についても理解を深めることができる絶好の機会です。教材を使った日本語指導、日常生活に欠かせない生活情報、日本語会話のレベルアップなど、私達ボランティア（日本語教育有資格者・無資格者）は学習者の様々なニーズに適った対応をしています。

本会では各学習者に「話す」機会を最大限与えることが学習の向上に不可欠だと考えています。また、学習者とボランティアの信頼関係なくして、楽しく学ぶことは望めません。楽しい学習環境をつくるために、各学習者には担当のボランティアが付き、各学習者のレベルに合った学習サポートを心がけています。「習うより慣れよ（Practice makes perfect）」、「聞く」・「話す」を繰り返すことが上達への道です。

「高輪日本語の会」は、平日仕事が忙しくて思うように日本語を習うことができない人達、学習後の帰宅時間が気になる人達に「土曜の午前を有効に過ごせる」と好評です。

私達「高輪日本語の会」のボランティアは、本会に参加する学習者が日本語学習を通じて好ましい「日本人像（日本観）」を持って頂きたいと願っています。

《高輪日本語の会》

◆毎週土曜日　午前10時から11時30分
◆港区立高輪区民センター講習室
（高輪コミュニティぷらざ内3階）
電話（03）5421-7616
◆最寄駅／都営三田線・東京メトロ南北線「白金高輪」駅下車5分
◆参加費／一人一回￥100

本会についてのお問い合わせは；
「高輪日本語の会」代表 高橋通子
takanawanihongonokai@yahoo.co.jp

会　員　団　体　紹　介

Nice to Meet You

「困ったら寄ってください」という気持ちをこめて

アジアの女たちの会・立ち寄りサポートセンター

町屋日本語教室（荒川区）

佐藤 智代子

通称「町屋日本語教室」、長たらしい名前の前置きが付いています。この前置きをなかなか捨てきれないまま、じき20才になります。

「アジアの女たちの会」は、1970年代の日本人男性による買春観光に反対して立ち上げられました。その分科会の一つ「立ち寄りサポートセンター」は、名古屋ラパーン事件（フィリピン女性の強制売春）の支援をきっかけに、滞日外国人女性をサポートする目的で1989年にできました。

「センター」と言っても、事務所もないボランティアの集まりです。当初は相談活動がメインでしたが、助けを求める声をじっと待つよりも、自分たちから街へ出ようと、日本語教室を都内３か所で始めました。いまも続いているのが、荒川区町屋の私たちの教室です。

町屋では、1991年1月20日、教会シスターの家の6畳間を借りて、日本人男性と結婚したフィリピン女性5～6人で最初の教室を行いました。

フィリピンのほか、タイ、韓国など、国際結婚した女性が多く集まりました。その後、バングラデシュ、インド、イランからの出稼ぎ男性、ベトナム、アフガニスタンからの難民、中国残留孤児の家族、研修生など、世界の動向を垣間見るように、いろいろな国の生徒さんが教室に立ち寄っていきました。

現在は、何と言ってもIT産業の韓国、中国、ベトナムからの頭脳流出です。生徒さんは皆、日本でのサバイバルのために向学心旺盛です。毎週日曜日、20～30人の生徒さんが集まります。

しかし、どの時代でも、深刻な問題をかかえる外国人がいます。相談内容はプライベートな問題ですから、教室とは切り離して、いまでも内緒でやっています。

そんなことで、「困ったら寄ってください」という気持ちをこめて、長たらしい看板を下ろせないでおります。

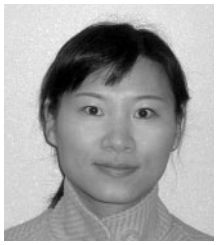
毎年恒例の一泊旅行の一コマです。

学習者の声

今度は私が韓国語ボランティアとして恩返しを

李　美蘭／韓国
光が丘やさしい日本語（練馬区）

私は今年四月に日本へ来ました。緑豊かで、買い物が便利で、子供の学校の近いところを探してやっと決めたのが東京都練馬区光が丘でした。それに区民センターの日本語ボランティア教室にも出会え、生活環境に恵まれており嬉しい気持ちでいっぱいです。私が日本語ボランティア教室に初めて行ったのは大学生時代語学研修に来た時です。もう十五年も前の話ですが、当時まだ韓国には韓国語を教えるボランティア教室がほとんどなかったので、先進国の国民の姿はこうあるべきだなとつくづく思ったことがあります。今回は家族と一緒なので勉強は無理だと諦めていましたが「光が丘やさしい日本語」ボランティア教室ではキッズクラスもあり本当に有難いことです。それに教えてくださる内容も非常に多彩で、新聞の記事を始め、歴史や宗教まで充実したものばかりです。とはいえ硬い内容だけでなく身近な単語にも触れてくださる優しさをその都度感じています。ある時は子供がいる何人かのためにわざわざ子供の成長に関するかわいらしい単語をまとめてくださり実生活でとても役立ちました。また日本人の名字の読み方や漢字の部首の名称などこれまで日本語を学んできたうえで一度も触れてもらったことのない部分を教えてくださり、まるでかゆいところをかいてくださるような感じでした。さらにこの教室に通ってよかったことは寂しくなりがちな外国生活の中で母国の人々とのコミュニティーが出来ること、又いろんな国の人に出会える楽しみがあることです。日本語ボランティア教室は今や私の日本の生活において欠かせない砂漠のオアシスのような存在です。先生のみなさまには心から感謝いたしております。韓国でも今は韓国語のボランティア教室が盛んになりつつあります。韓国に帰ったら日本のみなさまからいただいた素晴らしい贈り物を今度は私が韓国語ボランティアとして恩返しをしようと思っています。



ボランティアの声

年齢や経験の異なるメンバーで充実した教室活動

広報（山岸・栗林）　光が丘やさしい日本語（練馬区）

「光が丘やさしい日本語」は、1993年4月練馬区公民館講座「日本語を教えるための日本語講座」修了生によって設立されました。日本に滞在する外国人との交流と、日本での生活を快適にするための支援を目的に、日本語教室（年40回・水曜日・10～12時・於光が丘区民センター）、親睦会、月例研究会などを活動内容としています。現在ボランティアは16人(内キッズクラス3人)、年齢や経験の異なるメンバーが自由に意見を交わし、充実した教室活動をめざしています。

＊なに不自由なく会話はできるのに、読み書きができないからと、参加してきた学習者がいました。母国で勉強するチャンスに恵まれなかった彼女が努力に努力を重ね、日本語能力試験に挑戦した時には、本当に嬉しかったです。（活動暦9年）

＊ボランティア教室に参加してまもなく、教室で小さな子供がワーンと大きな声で泣きました。生活を丸ごと受け入れているボランティア教室の大切さを実感しました。（6年）

＊「夫婦げんかの仲直りは？」「一緒にお風呂に入って、ごめんねといいます。」……一番初めにビックリした文化の違いです。何気ない会話から、文化の違いに気付かされます。（3年）

＊自己紹介してくれた名前をメモする手元を見ていたＫさんの顔が綻びました。「先生韓国語できます。」とんでもない、大きな誤解。でも…できたら、もっと気持ちが通じ合えるでしょう。早速、ラジオテキストを買ってきました。（１年）

＊日本語を勉強している父母の傍らで遊んでいるさまざまな国の子ども達は、文字通り、多文化共生を実現しています。言葉や国をこえての交流に感動しながら活動しています。（キッズ）

活動を通して得られたこのような思いを大切に、より充実した教室めざして頑張っていきたいと思います。

NETWORK INFORMATION

「ボランティア日本語教室ガイド 2011」冊子発行の作業が進んでいます。

前号No71でお知らせしました。東京都内でボランティア日本語教室を開いている団体・教室を1件でも多くガイドに掲載出来るよう、TNVNが把握している団体・教室を通し調査を始めました。

調査は教室活動内容（ガイド掲載）の調査表Ⅰ、外国人に向けた行政情報についての調査表Ⅱ（学習者）・調査表Ⅲ（支援者）からなります。

回答の締切日は過ぎましたが、更なる回答を最終編集まで（12月中旬）お待ちしています。

調査表「Ⅱ・Ⅲ」にも多くの方々から協力をいただいています。結果は報告書にまとめ、皆さんにお知らせします。

外国人に「わかる日本語」の研究会を開始しました。

前号No71で『「分かりやすい日本語」を一緒に考えて下さい！』の記事を載せました。本号TOPで東京都の合同会議を紹介し、この中で「やさしい日本語」が取り上げられました。

TNVNは地域で活動するボランティア日本語教室を通して「日本語が不自由な外国人に行政情報を上手く伝える」かを考えていきます。

11月からTNVNのスタッフ・運営委員を中心に研究会をスタートさせました。先ずは用語として、外国人に「やさしい日本語」「分かりやすい日本語」「わかる日本語」が適切かを話し合いました。次に「やさしい日本語」について推進している事例を資料と「中野方式」が紹介されました。これからの検討基準を考える足がかりとなりました。

次回はメンバーが行政情報をを使って、その情報を如何に「わかる日本語」にするか勉強していきます。

月に1回の研究会を計画しています。既に「やさしい日本語」を進めている方、ご関心の方は是非ご参加下さい。ご連絡をお待ちしています。

■TNVNは「出前講習会」をしています。

都内や近県の日本語ボランティア教室には日本語ボランティア養成講座や研修講座を実施しているところが多くあります。
TNVNでは、そのような折に講習会を出前し、好評をいただいています。

貴団体もご計画をお持ちでしたら事務局にお問合せください。お待ちしています。
2008年は10件、2009年は6件の依頼を受け、協力させていただきました。

（担当：林川）

Column

❖日本語のリズム、言葉のひびき

言葉の遊びを書いた本が、近頃、沢山出ていて、「あいうえお」と読むだけでなく、日本語のリズムや、言葉のひびきを大切にして作られているようだ。

私の好きな北原白秋の「五十音」は、「水馬（あめんぼ）赤いな　アオウエオ　浮藻に小蝦（こえび）も　およいでる」と続いていく。

又、小学一年の『ひろがることば』という国語の教科書には、「あかいえ、あおいえ、あいうえお」とあり、又、おもしろいのは、「がぎぐげごぎぐげ　がまがえる」口の体操にもなって楽しく覚えやすくて、良いなと思った。遊びの中では、もっと日本語が生き生きと流れていて、よく歌われるが、途中から変化して、「花が咲いて、枯れちゃって、忍法使って、空とんで、ぐるっと回って、ジャンケンポン」又、「ものらん、ものらん、ジャンケンホイ」

わらべ歌の中には、昔から伝わる日本語の言い回わしがあるけれど、今では忘れて、使われなくなったのは寂しい。　（冬）

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第1、第3 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線ー出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル　10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。
ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス　No.4
●TEL：03-3235-1171
（呼出：金曜日活動時間帯のみ）
●FAX：03-3235-0050
●E-mail：webadmin@tnvn.jp
●URL： http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介
正会員：高輪日本語の会（港区）
個人協力会員：神田喜一

●会員数（2010年●月●日現在）
正会員：84団体、団体協力会員：4団体
個人協力会員：31名、賛助会員：5団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井芳野
●レイアウト／鶴田 環恵